

平成29年度学校評価

兵庫県立播磨農業高等学校

学校教育目標

- 1 農業教育を中心としたあらゆる教育活動をととして、志を持ち、たくましく生きる力と夢にチャレンジする態度と豊かな心を育む。
- 2 いのちあるものを育て、汗と土にまみれる体験を重視した教育活動をととして、人権感覚、責任感、勤労観、職業観を育む。
- 3 農業の生産・経営に関する基礎的知識・技術の習得及びその応用的・実践的能力と態度を育む。
- 4 寄宿舎教育をととして、自律心、協調性、責任感を育む。

学校経営の重点

- 1 農業経営者育成の推進
- 2 自主性・実践力の育成
- 3 情操の涵養・たくましく生きる力の育成
- 4 保護者・地域社会・農業関係機関等との連携
- 5 安全教育の推進
- 6 環境の整備

学校評価の実施方法についての学校関係者評価

■現在の方法で良いと思うが、アンケートの項目については再度検討していく必要がある。

総合的な学校関係者評価

■保護者アンケートの回収率が大幅に向上し、より信憑性の高い学校評価アンケートとなった。その中で、ほとんどの項目で生徒の評価が向上しており、充実した学校生活を送れている。

■各項目の質問ごとに各学年、男女に分けてデータ化されたアンケート結果は、今後の指導方針のヒントが多く含まれている。このデータをもとに来年度に向けた改善策を図り、よりよい学校運営につなげてほしい。

■教職員の評価項目について、全体的に低下している点は気になる。先生方は多くの仕事を抱え大変だと思いが、心に余裕を持ち今後も生徒のために頑張っていたきたい。

自己評価結果（A：達成している B：おおむね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況(上段)・改善の方策(下段)	学校関係者評価評価委員会意見
学校運営全般	学校の教育目標達成に向け、協働意識の高揚とPDCAサイクルの定着を図る。	B	本校の根幹である農業経営者育成について推進している。各関連機関との連携と地域貢献を行うことで生徒の自尊感情を育む。学校安全教育を推進し、施設設備や環境の整備を行う。	<p>■学校ホームページ・新聞等での広報活動は良く出来ており、今後も是非継続して広く発信をお願いしたい。</p> <p>■アンケートの結果で、多くの項目が教職員と生徒の評価に違いがあり、捉え方に差があるように感じる。</p> <p>■「播磨農業高校でしかできない学び」を大切にして、農業教育や寄宿舎教育のさらなる充実と発展に期待します。様々な取組みはそれぞれ大変素晴らしく評価するが、学校教育目標に向けたブレのない視点を先生方がしっかりと持つことが大切だと感じる。</p>
	学校ホームページ等様々な広報活動をととして、学校理解を深める活動を展開するとともに地域との連携・共生に意欲的に取り組む。		農業関係への進学・就農を目指した進路実現ができた。各生徒に応じた進路指導を行う。保護者と教職員の評価について差がある。生徒の自己肯定感を充実させるために、教職員と保護者と綿密な関係を維持し、情報発信を心がけて理解を求めなくてはいけない。また、教職員の教育活動についても、評価と検証を行うことで、各教育活動の目標と課題を明確にして行く。	
生徒指導	生徒の理解に基づき、教職員全員が生徒一人ひとりを伸ばす生徒指導を展開する。	B	生徒の内面的な理解を図りながら、個々の生徒に適応した生徒指導を心掛けた。キャンパスカウンセラーや高校生心のサポートシステム事業を活用しながら、多様な実践研究や研修会を実施して、各教職員の資質向上と指導法の共有を図った。	<p>■生徒指導の質問項目において、教職員と生徒の評価が大きく食い違っており、この事が何を意味するのか不思議です。</p> <p>■「学校では友達に恵まれ、学校生活を楽しんでいる」に対して、生徒の評価が向上したことは喜ばしいが、さらに学校生活を楽しんでほしいと思う。また、「規律やモラル」に対しての教職員と生徒の意識に差があると感じる。</p> <p>■2名のスクールカウンセラーの配置により、きめ細やかな生徒への対応がなされている。また、担任の先生方をはじめ教職員が生徒の内面を理解した生徒指導に取組まれていると感じる。</p>
	基本的な生活習慣や規範意識を定着させ、自他ともに大切に作る学校生活に取り組みさせる。		生徒指導の方針や狙いを、生徒や保護者のみならず地域社会を含めて、今後も継続的に周知する。職員間の共通理解を図りながら生徒の内面理解を努め、挨拶・礼儀・規範意識などの社会性の基礎基本を定着させ、生徒の自尊感情の育成や規範意識の向上に努める。生徒個々の尊重を基礎として、相手の立場に立った物事の考え方が出来る人物の育成に努める。	
学習指導	教材の精選と指導の工夫を行い、生徒の個に応じた教育の充実を図る。	B	1年次を中心に、国語、数学、理科、英語の各教科で、1クラスを2グループに分けた少人数授業を実施している。きめ細やかな指導を行い、基礎学力の充実を目指している。同時に、専門教科である農業科の授業でも、おもに類型別に少人数授業を行い、学力の伸長を図っている。また、各種検定を受検するなど、多様な学びの意欲にこたえるため、教材の提供や補習の実施などを行っている。	<p>■適切な学習指導はされていますが、個々の生徒が何か目標を見いだせることが大切であり、そうした視点からの日頃からの生徒へのアプローチを先生方には求めたい。</p> <p>■カリキュラムについては、生徒の興味関心や学力に応じて良く考えられた内容であると感じます。また、アンケート結果から、保護者の学習指導への関心や意識も高いと感じる。</p> <p>■就職しても困らない基礎学力の定着と、大学進学等を目指した学力の向上の両面から今後も生徒の支援をお願いしたい。</p>
	新教育課程に向けた実施計画を進める。		専門科目の学習内容に対する理解をより深めるために、各学年の教育課程を見直している。また、2年次、3年次の選択授業は内容を精選し、生徒の興味関心に応えながら、より効果的な学習ができるように工夫しており、今後も継続的に改善していく予定である。その他、情報機器を活用した授業についても、さらに研究を進めていきたい。	
進路指導	個に応じた進路実現に向け、情報の提供・相談体制を作る。	B	教育活動全般をととして、キャリア教育の推進を図った。3年生では多様な進路に対応するため、特に国立大学や獣医学部を希望する生徒に対して個別指導を充実させた。1・2年生に対しては進路意識の向上、とりわけ農業分野への関心を高めるために、大学訪問や進路ガイダンスの充実を図った。	<p>■教育課程を通じてキャリア教育の推進を図られた結果、3年生の進路として国立大学をはじめ獣医学部など、高度な教育機関から個々の多様な進路希望に添った進路指導がなされたことは評価できる。また、生徒自身の将来への進路や夢などを意識させるような機会を、計画的に段階的に設けていただくことを期待する。特に、改善策にも表記されている2年生でのインターンシップや播磨農高で育った女子生徒を活かすような求人開拓に期待する。</p> <p>■農業系の進路がさらに増えており、農業経営者育成高等学校としての使命が果たされており大変嬉しく思う。</p>
	キャリア教育の推進を図り、職業観・勤労観を育成する。		農業系の進路を選択する生徒を増やすために、各学年の進路指導計画に加えて、個別指導の充実をより図る必要がある。また、2年生でのインターンシップを充実させるとともに、ひょうご就農支援センター、県農業普及センターや県酪農組合等農業団体との連携を密にする。女子生徒の増加に伴い、女子の求人が今まで以上に必要になる。女子求人の開拓を積極的に進めたい。	
農業教育	農業教育をとし、生命を尊重する心と安全第一を優先とする意識を向上させる。	A	栽培飼育管理実習や解体(鶏・豚枝肉)実習、収穫感謝祭、畜産祭、販売実習を通して、「命の大切さ」を実感させる教育を推進した。時間内総合実習において「農業実習の心得」を全員で毎時間、読み上げ、安全教育に努めた。また外部講師を招き、生徒や職員に「安全教育講習会」を実施したことや職員研修を行い、生徒への安全教育の徹底を周知した。	<p>■農業教育に関する質問項目においては、生徒、保護者、教職員すべてで大変高い評価となっている事、さすが文部科学省指定農業経営者育成高等学校だと思ふ。</p> <p>■学習、実習を通して「命の大切さ」を学ぶ、実感させる教育の推進という農業高校ならではの教育には生徒、保護者、教職員ともに評価が高く、その成果が伺える。また、播磨農高の特徴である1)自分たちが様々な活動することにより地域とつながりをもつ、2)企業・大学との連携による課題解決や研究活動などを通して、生徒の自信につながっていることや、外部からの評価など、自身の成長を生徒自らが感謝している状況は大きな成果と考える。今後も播磨農業高校教育の使命として頑張っていたきたい。</p> <p>■長期休業中や授業課題などにより、積極的に資格取得していることは大変評価できる。また、地域での活動が学習成果発表会などで広く発信されている取組みは評価できる。</p>
	各種資格・検定試験や各種大会等に参加、挑戦させることにより、生徒一人ひとりの能力を高め、自信を持たせることにより、進路実現につなげる。		各種資格取得を目指す指導を随時行ったことで、生徒は学年が上がるにつれて、進路を意識した積極的な取組が見られた。各コースの特色を生かした地域での活動や研究が、生徒の学ぶ意欲の向上に結び付くと同時に、キャリア教育へとつながることができた。2月に実施した学習成果発表会では、生徒が自身の学びに誇りを持ち、向学心と能力を高めることができた。	
特別活動	本校の教育活動で体得したものを、勤労やボランティア活動(障がい者支援、環境保全)等で実践させる。	B	公募による呼びかけでボランティアに多くの生徒が参加した。(特に、通学生の参加が増えた。)地域からの要請も年々増加している。地域と連携した交流活動を通して豊かな人間性を培う。本年度、「第19回ボランティアのつどい」で、高校生の代表として体験発表を行う。	<p>■地域社会と交流が促進されることにより、生徒たちの視野が広がっていると感じられる。また、そのことを体験発表したり、功績に対する表彰を受けることにより地域への愛着が沸き、生徒の自己肯定感の育成につながっていると感じる。</p> <p>■ボランティア活動などの取組みは、社会とつながる良い機会となり、今後も重要視されると思われる。地域社会に貢献し、地域を愛する人材の育成に今後も協力を頂きたい。</p>
	地域との連携を深め、交流活動を通して社会性や集団参加の意識を高める。		勤労体験やボランティア活動への参加機会を更に増やした。ボランティア活動を通して、奉仕の精神を養うとともに地域との交流に努めた。本年度、加西市社会福祉協議会より、ボランティア活動の功績に対する表彰を受けた。	
寄宿舎教育	寮の日課を確実に果たし、規律ある寮生活の中で自律性・協調性・責任感などの能力を体得させる	A	寮の日課に各学年ごとの学習時間を加えることにより、寮生活にメリハリを持たせ、自学自習を行うきっかけとなる指導ができた。また、2年次からの入寮希望者全員に入寮面談を実施することで、寮生活の様子や寮教育について保護者の協力が得られやすくなり、基本的な生活習慣の確立と感謝の心を育む指導が推進できた。	<p>■寮生活において全学年の学習時間を設定されたことは評価できるが、生徒が自主的に学習をできるよう導いてほしい。</p> <p>■質問項目にある「寮生活はプラスになっている」について、在学中は判断が難しいのではないかと。卒業して、時間が経過することで分かってくるものであり、質問項目を考え直す必要がある。</p> <p>■入寮面談を通じて、寮生活の様子を保護者に伝達したり、保護者からの意見を直接聞く機会を設けることで、寄宿舎教育への協力や理解がさらに深まっていると感じる。</p>
	異年齢集団の構築・成熟をめざし、相互の人間関係の深化を図るとともに、玉丘寮に誇りを持たせ、自己の役割を果たさせる。		寮役員を中心とした寮運営を実践し、生徒間の人間関係の構築と自主・自律の精神を養うことに努めたが、寮生全体の意見を吸い上げる体制が整っておらず、今後は不満を抱えている寮生のケアにも努めていきたい。また、舎監にあたる教職員の指導に温度差があり、生徒の不満につながっている部分もあることから、こまめな舎監会議の実施や、舎監勤務のマニュアル化を進めていく必要がある。	